

【目的】

自主防災隊など住民の方が、火災で消火栓を使用する際の手順をお伝えします。

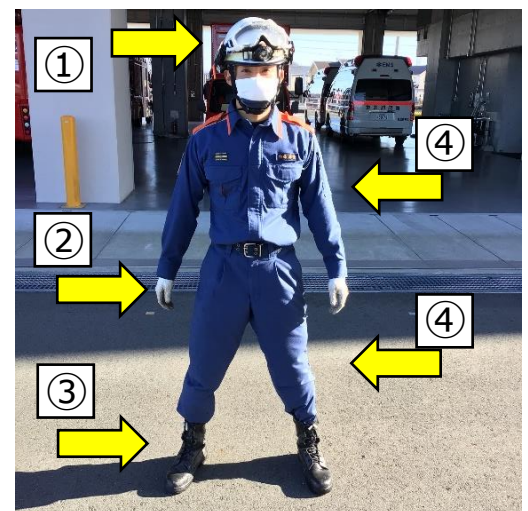
活動時の事故等により怪我をする危険がありますので、安全に活動するために以下手順を参考として下さい。

また、火災以外に消火栓をみだりに使用した場合は、消防法により罰せられる場合があります。

1 活動にあたる際、身を守る個人装備

可能な限り、下記の装備を整えて活動することが身を守るために必要です。

- ①ヘルメット
- ②手袋（皮素材など、切り傷に強い素材が好ましい）
- ③安全靴
- ④長袖、長ズボン



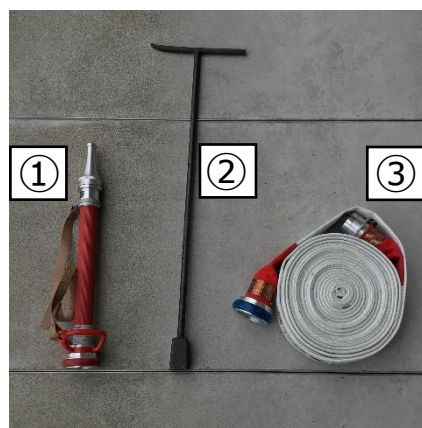
2 必要な人数及び資機材

活動人員 必ず2人以上で活動してください。

例：4人での活動 消火栓操作者1人 筒先保持者1人 筒先補助者1人 伝令者1人

資機材

- ①消火用筒先（ノズル）
- ②消火栓ハンドル
- ③ホース



上記の資機材は、地域によっては消火栓付近の消火栓 BOX に収納されています。

注 消火栓 BOX は自治会にて設置されているもので、全ての消火栓の近くに消火栓 BOX が設置されているわけではありません。

3 消火栓の種類

消火栓は大きく分けて2種類あり、四角蓋と、丸蓋があります。



四角型消火栓



四角型消火栓（割蓋）



丸型消火栓

4 ホースの取り扱い方法

ホースについている金具は2種類あります。

金具のみの先端がオス金具、ゴムの環がついている先端がメス金具といいます。

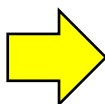
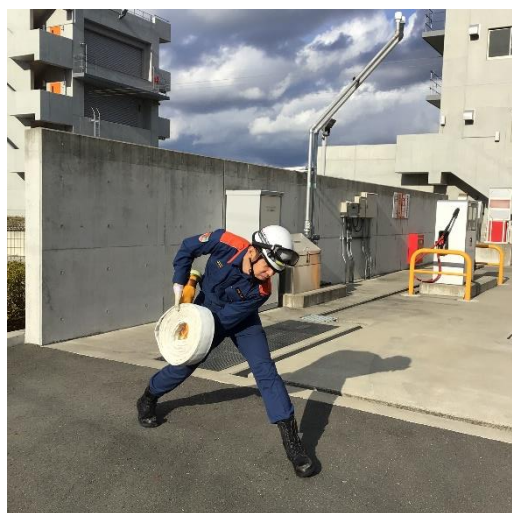


ホースの巻き方は2種類あり、消火栓 BOX に入っているホースは概ねこのどちらかの形で収納されています。



(1) 1 重巻ホースを延ばす方法

- 1、巻いてあるホースを持ち上げ、メス金具を持ち必ず前方に人や障害物など無いことを確認し、前方に転がします。



(2) 2重巻ホースを延ばす方法

- 1、メス金具を足で踏み、オス金具を手に持ち、必ず前方に人や障害物など無いことを確認し、ホースを持った手を下から振り上げホースを転がします。
- 2、ホースが延びたら、オス金具を持ったまま火災現場に向けて移動します。



(3) 筒先、ホース同士の結合



注 結合後は、筒先や金具を引いてしっかりと結合されているか確認してください。

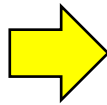


結合時、ホース先端のオス金具を踏みオス金具がやや上を向くように金具付近を押さえ、メス金具を接続してください。

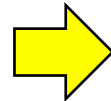
5 消火栓の取り扱い方法

(1) 四角蓋消火栓の蓋の開け方

- 1、消火栓ハンドルを準備しておきます。
- 2、消火栓ハンドルの先が尖っている部分を消火栓の蓋の穴に差し込み、てこのように力を加えて持ち上げるようにします。
- 3、蓋が少し動いたら、蓋に取り付けられている、取ってをつかみ蓋を外します。



(2) 丸蓋消火栓の蓋の開け方

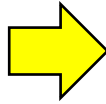


- 1、消火栓ハンドルを準備しておきます。
- 2、消火栓ハンドルの頭の部分を、消火栓の蓋の穴に差し込み、てこのように力を加えて持ち上げるようにします。
- 3、蓋が少し動いたら手前側に消火栓ハンドルを引き、蓋を横へずらします。

注 どちらの消火栓も蓋が重いので、指や足を挟まないように十分気を付けて下さい。

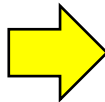
(3) 消火栓への器材取り付け方法

1、ホースのメス金具を消火栓のオス金具へ取り付けます。



引っ張って確認してください。

2、消火栓の蓋を開けると四角形の突起部分があるので消火栓ハンドルを差し込みます。



※操作部が見えるように、ホースを外してあります。

注 ホースを消火栓に接続後、結合されているか必ず引っ張って確認してください。

6 放水活動

(1) 人員配置と役割について

例：4人での活動 消火栓操作者1人 筒先保持者1人 筒先補助者1人 伝令者1人

消火栓操作者 消火栓ハンドルを操作して、水量の調整を行います。

筒先担当者 筒先を持ち火事現場に向かって放水を行います。

筒先補助者 筒先保持者のすぐ後ろでホースを持ち放水の補助を行います。

伝令者 見通しが悪い場所や声が届かない場合、筒先と消火栓操作者の指示を伝えます。

(2) 放水時の基本姿勢

消火栓の圧力は非常に高いため、しっかりとした姿勢で放水してください。

右手は、筒先の根本付近の持ち手を握って右腰にあて、左手は筒先上部を握って概ね 30 度で保持し、体形は左足を 1 歩前に踏み出し、膝をやや曲げ同時に体重を前方に置き、右足は放水の反動力を抑えるため、まっすぐ伸ばし前傾姿勢を取ります。



**筒先は、離すことがないように
しっかり握ってください。**

筒先補助者は、筒先担当者の反対側 1 歩後方（約 70 cm）に位置し、右足を 1 歩踏み出して右手で筒先側、左手で消火栓側のホースを持ち、反動力に耐え得るやや腰を落とした前傾姿勢で放水補助を行う。



(3) 放水始め

筒先担当者は、放水の準備ができたなら消火栓操作者に対して「放水始め」と発声及び可能なら、次項の写真のような合図を行います。（見通しが悪い場合は伝令者が伝える。）

消火栓操作者は、「放水始め」の復唱及び可能なら次項の写真のような合図をし互いに確認をしましょう。

消火栓をゆっくり開放します。（左回し）

消火栓の開閉操作は、筒先での水の出具合を確認しながら様子を見てゆっくりと操作して下さい。

注 急激な開閉操作は放水の水圧によりホースが暴れ、筒先が身体に当たり負傷する事故の危険があります。

放水始め



筒先側

放水始めの了解



消火栓側



消火栓ハンドルは左に回す

(4) 放水止め

筒先担当者は、放水を停止する際、消火栓操作者に対して「放水止め」と発声及び可能なら下記の写真のような合図を行う。(見通しが悪い場合は、伝令者が伝える。)

消火栓操作者は、「放水止め」と復唱及び可能なら下記の写真のような合図をし、消火栓を閉鎖する。(右回し)

注 消防車が到着した際は、消防職員又は消防団員の指示に従ってください。

放水止め



筒先側

放水止めの了解



筒先側



消火栓ハンドルは右に回す

(5) 放水中に守っていただきたいこと

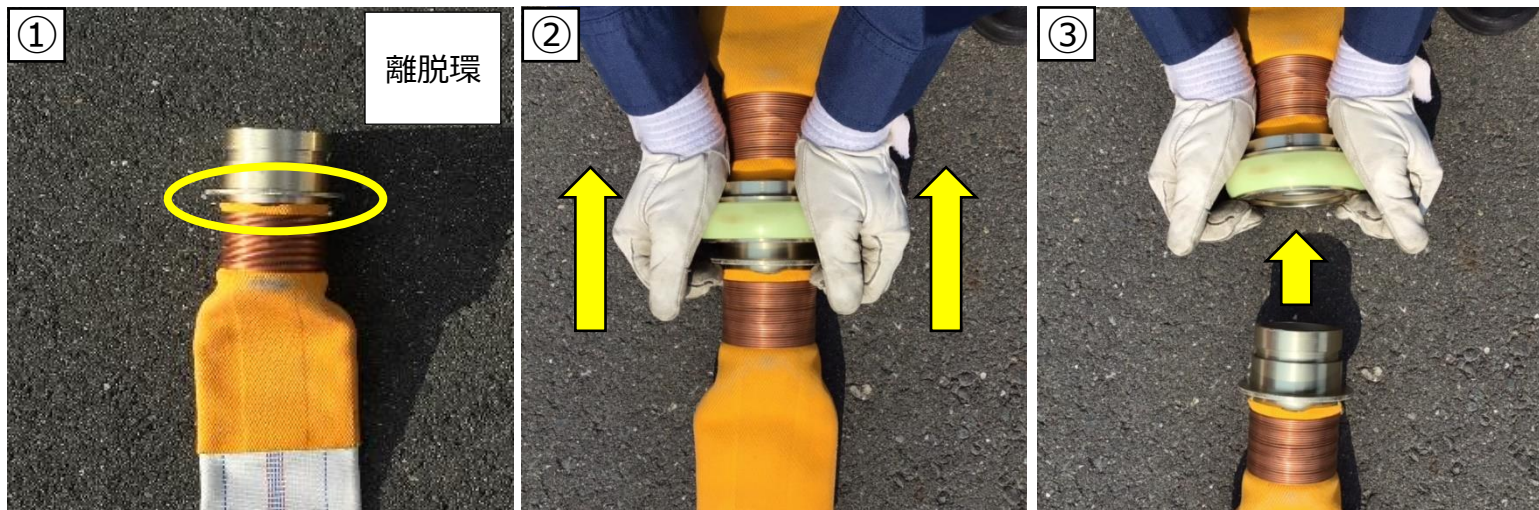
放水中に筒先を離した場合、放水圧で筒先が暴れて非常に危険です。筒先担当者は必ず筒先を離さないようにしてください。

消火栓操作者は、筒先担当者が、筒先を保持できそうもないと判断した時や、万が一、筒先を離してしまった場合は、速やかに消火栓を閉鎖してください。

7 筒先、消火栓からホースを取り外す方法

前項の操作で、放水止めの合図によって消火栓を閉じたことを確実に確認します。

必ず、消火栓が閉じられて、消火栓から水が出ていないことを確認して、オス金具についている離脱環と呼ばれるリングをメス金具側へ押し込み、取り外しをしてください。



注 消火栓が開いている状態で、取り外し作業を行うと水圧により、勢いよくホースが外れて金具が身体に接触し負傷することがあります。

注 放水停止後、ホースの取り外しができない場合、筒先側から水を抜いて再度取り外し操作を行ってください。

8 その他、気をつけていただきたいこと

- 1、活動初期、放水活動をする場所は安全な場所を選んで頂きますが、危険と思ったらすぐに放水を中止して、安全な位置へ退避してください。
- 2、放水は屋外から行い、燃えている建物内は危険なため、入らないでください。
- 3、火災が発生していない通常時は、消火栓の使用はしないでください。
- 4、消火栓の開閉により水道水が濁ることがあります。